

24 水稲多収性品種の取り組み

- 生産者手取りの安定・向上のためには、需要に応じた米生産が必要です。
- 熟期の異なる品種を組み合わせることにより、作業分散・農機稼働率の向上がはかられます。
- 多収性品種により非主食用米(水田活用米穀)に取り組むことで、単収増加などによる手取りの確保が期待できます。

【多収性品種による非主食用米(水田活用米穀)の取り組み】

- 主食用米の需給が大幅に緩和するなか、非主食用米(水田活用米穀)への取り組みが重要となっています。
- 単収増加や交付金等の支援策の活用により、主食用米並みの手取りが見込めます。

【多収性品種の非主食用米での手取りイメージ(例:飼料用米)】

		ゆきん子舞			
		飼料用米		主食用米	
		一括管理	区分管理		
地域の合理的な単収(基準単収)	① kg/10a	510	510	510	
品代	単価	② 円/60kg	330	330	9,300
	基準単収の増収分	③ kg/10a	150	150	150
	主食用販売分の単価	④ 円/60kg	9,300		
	計	⑤ 円/10a	26,055	3,630	102,300
戦略作物助成		⑥ 円/10a	80,000	105,000	
収入	10aあたりの収入	⑤+⑥ 円/10a	106,055	108,630	102,300
その他	複数年契約加算	⑦ 円/10a	6,000	6,000	
	産地交付金	⑧ 円/10a	+α	+α	

※ 単収は、660kg/10aとした。
 ※ 品代は、3年産想定単価を仮置きした。
 ※ 4年産の戦略作物助成(⑥)、複数年契約加算(⑦)は未確定となっている。
 ※ 4年産の複数年契約加算(⑦)は、4年産からの契約分は対象外となる見込み。



【新潟県で取り組んでいる主な多収性品種】

品種名	特徴
ちほみのり	・出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ7日早い早生種。 ・目標収量は720kg/10a。 ・耐倒伏性が強く、外観品質・食味は「あきたこまち」同等。
ゆきん子舞	・出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ1~2日及び2~3日早い早生種。 ・目標収量は720kg/10a。 ・耐倒伏性が強く、高温登熟性に優れ、高温年でも品質は安定。
つきあかり	・出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ4日早い早生種。 ・目標収量は660kg/10a。 ・大粒で、炊飯米の外観がよく、良食味。
にじのきらめき	・出穂期は「コシヒカリ」並みで、成熟期は4日程度遅い中生種。 ・目標収量は720kg/10a。 ・倒伏しにくく高温耐性もあり、千粒重が高く、良食味。
あきただわら	・出穂期は「コシヒカリ」に比べ8日程度、成熟期は11日程度遅い晩生種。 ・目標収量は720kg/10a。 ・外観品質と食味の両方に優れる。

【参考:熟期比較】

8月	9月			10月
	下旬	中旬	下旬	中旬
ちほみのり	こしいぶき		あきただわら	
ゆきん子舞		コシヒカリBL		
つきあかり		にじのきらめき	新之助	

※品種特徴と熟期比較は、平成31年2月改訂版 新潟県農林水産部作成「稲作経営への多収性品種導入のすすめ」を参考に作成。